

[Faint handwritten notes at the bottom of the page, possibly "Lm" and "Tut"]

軍事課

李

決行後圖覽課名

0181-2

E			審案筆記者		局	

0181-2

富田集石堂

次官ヲ拓殖事務局長ニ回答
 首題ノ件ニ關シ十月七日拓一第ニ七五四
 號ヲ以テ拓殖局長官ヨリ照會ノ趣當
 省トシテハ意見無之候也

拓殖事務局長
 一〇六二

十月二十日

肩代リ問題ハ後日回答セラル、元々又ナク先ッ
 同組合存立ノ内ニ意見ヲ呈スル函知致シ
 又キ趣キ木立支社長ヲ申込アリル
 工兵課

第四八五號 共二

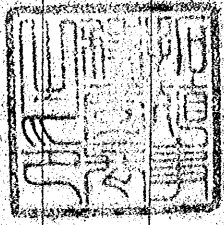
第一二七五號

四月十四日



大正十一年十月十三日

拓殖事務局長元田敏夫



陸軍次官白川義則殿

極東運輸組合ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ十月七日附拓一第ニ七五四

號ヲ以テ貴省ノ御意見照會致置速

處右至急御回示相煩度再々應及照會修也

拓殖事務局

(195)

第一二七番號

九年

西曆一九〇〇年十一月九日

十月九日

大正元年十月七日

拓殖局長官赤池濃

陸軍次官児島惣次郎殿

極東運輸總局ニ關スル件

大正八年六月附註大正九年十二月二十五日附リ以テ南滿洲鐵道株式會社ヨリ貴省大臣宛請願稟ル旨題

件ニ関シ左層社ヨリ別紙寫ノ通
 政府ノ意嚮伺出候ニ付右ニ關スル
 貴者ノ由意見未回示相煩度也
 段又照會候也

寫

9810

大正十一年九月廿三日

大正十一年九月廿三日

南滿洲鐵道株式會社東京支社
支社長 木部 守一

拓殖局長官 赤池 澄 殿

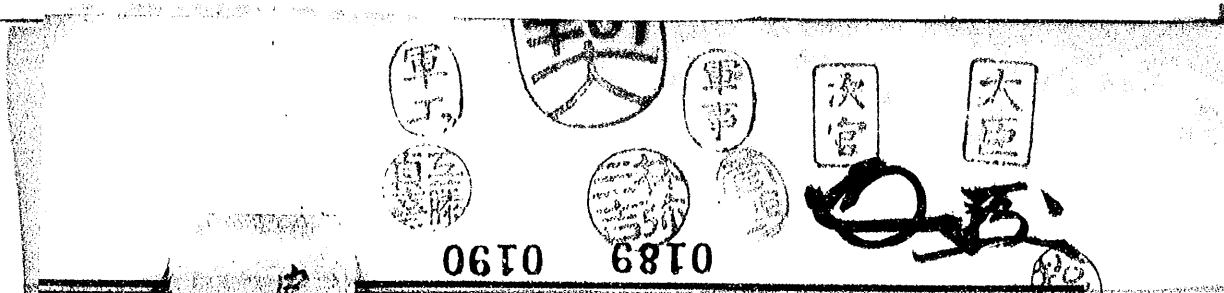
會社ノ極東運輸組合ニ關スル投資ヲ政府ニ於テ肩代リ相成度旨請
願ノ次第ハ去ル大正九年十二月二十五日付東照第七八九號ヲ以テ
弊社長ヨリ陸軍大臣宛書面寫ニ依リ御承知ノ通りニ候得共未タ御
總納ニ至ラス會社ハ其整地ニ困惑致居候ニ付何卒請願ノ速ニ達成
致候様更ニ御高配ヲ蒙リ度奉願候右肩代リト別ニ右組合ヲ以テス
ル航運業ニ關スル會社今後ノ方針ヲ至急決定致度存候ニ付茲ニ情
ヲ具シ政府ノ御意向ヲ奉伺候

南滿洲鐵道株式會社東京支社

本事業關係船舶ハ目下幸ニ臨時航行許可ヲ得テ松花江ヲ航行致居
 候得共北滿ニ於ケル航運業ハ松花江ト共ニ黑龍江ヲモ自由ニ上下
 シ得ルニ非レハ到底採算ノ望ナキハ斯業經驗者ノ所見一致スル所
 ニシテ現在ノ如ク松花江ニ限定セラレ且船腹過剩ノ狀態繼續スル
 限り營業トシテハ所詮航行ハ損失ヲ續クルノ外ナキ次第ニ有之候
 斯ノ如キ事業ヲ目的トスル右組合ニ對シ會社ハ本年二月末現在ニ
 於テ三百四十四萬圓餘ノ貸付金ヲ爲シ居候處組合所有財産ヨリ會
 社力確實ニ回收シ得ヘキ額ハ僅カニ六十八萬圓餘ニ過キス而モ此
 損害額ハ現狀ヲ以テスレハ逐年増加スヘキモノニ有之候而シテ斯
 カル犠牲ニ依リ會社力期圖シ得ヘキ利益ハ單ニ船車連絡ノ方法ニ
 依リ哈爾濱ニ集散スル貨物ヲ社線ニ收集スルノ一途アルノミニシ
 テ此利益カ果シテ犠牲ニ相當スルモノナルヤ否ヤ知ルヘカラサル
 處ニ有之候數ニ相當利益アリトスルモ必スシモ現在ノ組合ヲ保持

南滿洲鐵道株式會社東京支社

セサレハ之ヲ敗メ能ハサルモノナルトモ不被存候然ラハ會社力組合ヲ繼續セサルヘカラサル絶對的理由ハ會社營業ノ範圍ニ於テハ一モ無之次第ニ候前記肩代リ請願ノ除申述候如ク本事業ノ開始ハ元來時ノ政府ノ御内命ニ基キタルモノニシテ會社力窮境ニアル本事業ヲ今日迄モ繼續シ來リ候モ亦會社ノ營業以外邦人勢力ノ發展及^{肉策ヲ}圖^ルモ考慮シタルカ爲ニシテ若此點ニ於テ裨益スル處無之ニ於テハ本事業經營ノ理由消滅スルヲ以テ會社ハ一日モ速ニ右組合ヲ處分シ今後損失ヲ輕減セサル可カラサル次第ニ有之候ニ就テハ政府ニ於テ本事業ニ對シ如何ナル御方針ヲ有シ居ラルルヤ今後累加スル損害ヲ忍ビテモ贊同之ヲ繼續スルニ値スル圖策上ノ利益ヲ御考慮相成リ居ラレ候ヤ至急此點ニ斷スル政府ノ御意嚮御達示ヲ得候様御配慮ヲ蒙リ度依命此段奉願候也



Vertical handwritten text on the left side of the page, likely a signature or official stamp, written in cursive Japanese characters.

大 臣
次 官
軍 事
大 臣
0610 0189

軍省
領事
二七二二
號

東 康 第 六 〇 〇 號

軍 事 第 一 號

杉花里龍西に船舶買収、善後策に關し
テハ前任者ヨリモ屢次請願、次第モ有之當
局、於テモ始終忝念慮被成下候事ト存候
得共今尚忝回示、拝接スルニ至ラス候本件ハ
大正七年春當時政府、御内命ニヨリ當社
ニ於テ出資經營、衡ニ當リ居リ、其後
西比利亞事情悪化、為メ船舶、過半ハ過
激派ノ手ニ落チ其回復ハ今日、於テ容易ニ
期待ス可カラサル状態ニ有之候加之本年春
支那政府、於テ外國人、杉花里航行業ヲ

有馬州鐵道株式會社

禁止スルアリ其解禁運動モ今日ニ至ル迄何等
 ノ効ヲ奏シ居ラズ候随テ當社残餘ノ船舶モ
 本年ハ徒ラニ繋船ノ已ムナキニ至リ候テ現状ヲ
 以テ推移スルニ於テハ會社ハ坐シテ損失ノ増加
 ヲ待ツ外ナキノ狀況ニ有之之が為ノ本件ニ関
 スル會社ノ損害ハ徒ラニ累増ノ一方ニ有之候
 元來本件カ政府ノ御内命ニヨリ當社代ツテ
 政府政策遂行ノ術ニ膺リシモノニシテ當社本
 來ノ事業ニ無之ハ請願ノ都度申述候處ニ
 シテ當局ニ於テモ御諒察ノ事ト奉存候間
 何卒右事情御賢察被下此際右損害填

浦方、付何卒御厚配ヲ仰キ度此般重テ
奉請願候也

大正十年十一月廿一日

南滿洲鐵道株式會社

社長 早川千吉郎



陸軍大臣山梨半造殿

0193

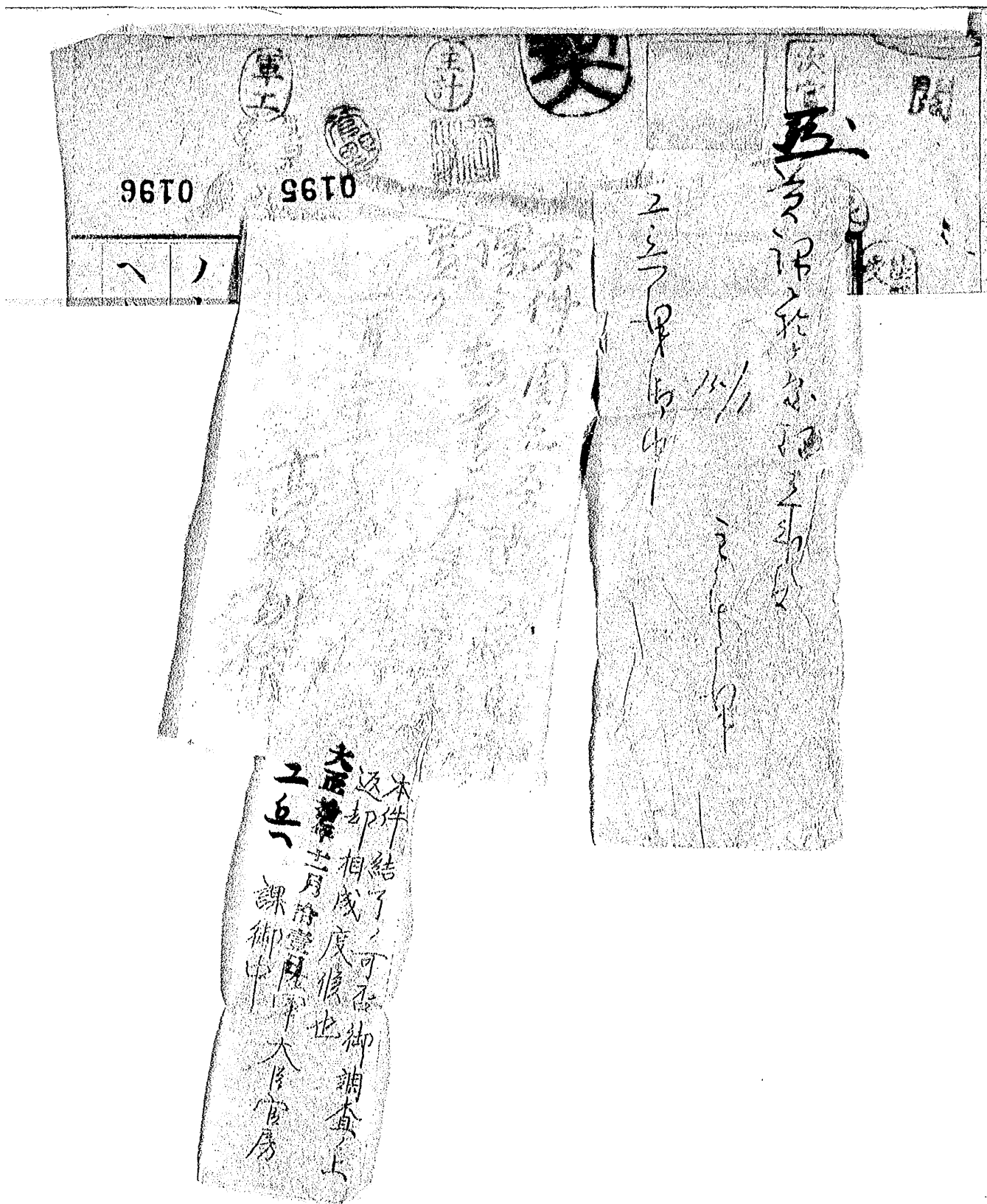
陸軍大臣山梨半造殿

東歷第六〇〇號

0194



南洋経済通社
社長 早川千吉郎



本件結了可否御調査上
返却相成度候也
大正十一年十月
工兵課御中
大官房

東歷第七八九號

西曆一千八百八十九年

四月廿四日

經月四日

大正七年四月中政府ノ御内命ニ遵ヒ買収致
 候黒龍江汽船善後處置ニ關シテハ前任者
 ヨリモ數次懇願ノ次第モ有之小職亦昨春就任
 後早速同様ノ御詮議相願出當局ニ於テモ厚
 キ御思召ヲ以テ種々御配慮被下置候儀ハ漆々
 感謝罷在候ヘトモ今仍ホ相當ノ解決ヲ見ルニ至ラ
 ス困却仕居現ニ敝社ガ融通致来候資金總額ハ
 約參百萬圓ニ相達シ候實狀ニテ而カモ其ノ船舶
 ノ大半ハ過激派ノ掌裡ニ以洛チ安否固ヨリ不明ニ候
 ハ假令露路國ノ政情安定致候トモ到底完全ニ資

金ノ回收ヲ望ムヘカラサルハ想像ニ難カラサル所
 敝社トシテハ資金缺乏ノ折柄別ニテ當惑罷
 在候儀ニ御座候本件ハ畢竟當時廟議ノ御
 決定ニ基キ敝社ハ御内命ヲ奉ヒ一時資金ヲ融
 通致シ買収其ノ他ノ局ニ相當リ候コトニテ萬一ノ
 場合ニハ政府ノ御保證ヲ得居候コトニ相心得候
 趣前任者ヨリ申繼キノ次第モ有之候何卒前
 来ノ事情御洞察被成下昨年六月中職ヨリ
 願書差出置候通り此際右買収資金政府へ
 御肩代リノ儀御聴納相成度候猶ホ敝社トシ
 テハ今九年度内ヲ以テ右等一切整理致度ト存

居候ニ付至急何分ノ御詮議相仰キ度此段及
再願候也

大正九年十二月二十五日

南滿洲鐵道株式會社

社長 野村龍太郎



陸軍大臣男爵田中義一殿

南滿洲鐵道株式會社

6810

官房
第

二百十

工兵隊

二トト

本隊会ニ付し
田舎セガ



次官

大臣

五

四

0020

工部省

軍事課

本件終生ノ根拠付キ一
参謀部印ノ間ヒ合ハセテ
成

天臣
閣

圖

五

軍工

0050

0201

當課意見見左ノ如シ

一臨時軍事費打切前ノ解送ノ可キ

ニ本件ハ見立輸長ト由中參謀次長及

後理大臣ヲ於テ新ニシテ之ノ如ク

ニ修テ本件ハ内閣ニ於テ處理スル

通ニ當ル

自平

二
名
課



各陽子印の部々調査を以て示す
五号

中見見弟一度

幸ひなり

軍務局大兵課

軍事課長

先づ貴課の意見承り度

軍事課

0202

0505

0203

拓一第 四二一號

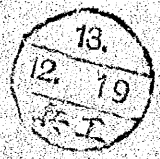
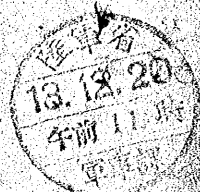
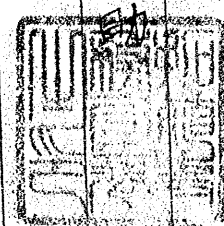
天正十三年十二月十七日

拓殖事務局長 濱田 恒之助

陸軍次官 宇垣 一成殿

極東運輸組合ニ関スル件

首題ノ件ニ関シテハ南滿洲鐵道株式會社ヨリ貴省大臣
宛屢次請願ノ次第ニ有之候處今般更ニ當司經由貴
省大臣宛別紙ノ通願出候ニ付右ニ對スル貴省御意見御
田示相煩度此段送付旁々及照會候也



拓殖事務局經由

南滿洲鐵道株式會社東京

東照庶第二九四號

大正十三年十月九日

南滿洲鐵道株式會社
社長 安廣 伴一 郎



陸軍大臣 宇垣一成 殿

撥テ前任者ヨリ數次ニ亙リ稟請申上御高配相煩シ候弊社出費ニ係
ハル極東運輸組合ノ件ニ關シテハ昨年一月九日拓一第二七五四條
ヲ以テ拓殖事務局長ヨリ御通達ノ次第モ有之莫大ナル犠牲ヲ拂ヒ
テ迄本事業ヲ繼續セシムルノ御意圖ナキ以上弊社ニ於テモ將來更



ニ累加セ行クヘキ損失ヨリ免カルル爲本事業ハ可成速ニ之ヲ中止
 スルヲ可トシ其ノ方針ノ下ニ着々整理万取運ヒ居ル次第ニ御座候
 處元來本件ハ畢竟當時廟議ノ御決定ニ基キ弊社ハ素々本然ノ事務
 以外ノ事ニ屬シ且ツハ當時資金融通ノ逼迫ニ直面シ居リ候得共幾
 程モナク回收シ得ラルヘキ事ヲ確信シ一時ノ方便ト存シ資金ヲ融
 通致シ買収其ノ似ノ局ニ當リ以テ今日ニ及ヒ申候事トテ結局萬一
 ノ場合ニハ政府ノ御保證ヲ得居候事ニ相心得候趣前任者ヨリノ申
 繼キノ次第モ有之候間何卒前來ノ經緯御諒鑑被成下前任者ノ名義
 ヲ以テ内願仕置候通り速ニ肩代リノ恩命相荷ヒ得候上弊社勘定整
 理相仕リ得可キ様特ニ御詮議相仰キ度奉存候此段重ネテ懇願仕候
 也



次官

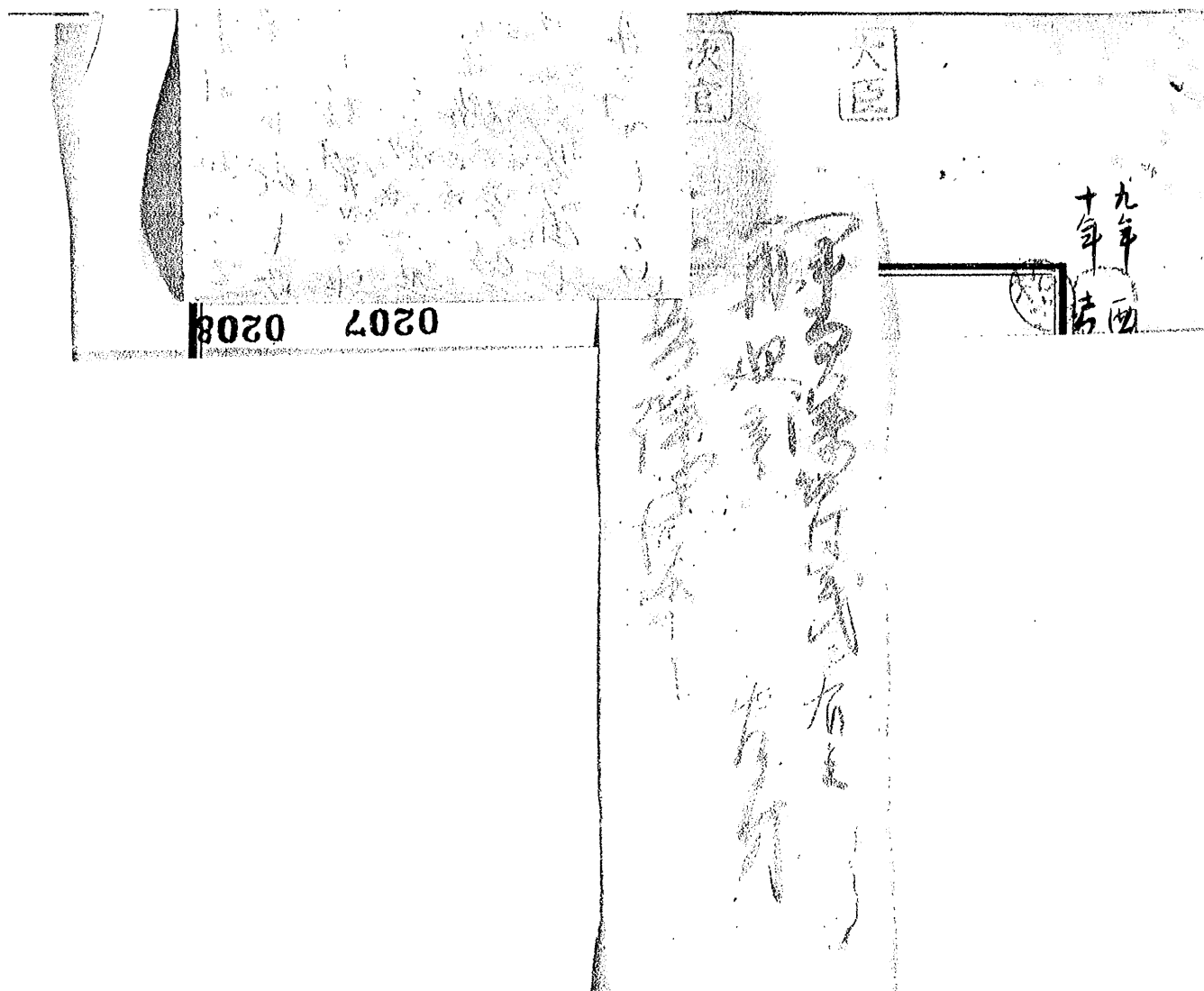
大臣

9050



九年
十月

4) コーシニ其性質ハハノモノト全一
 ト思召スルハ付テ満鉄カ全船ヲ他
 ニ移シ一船庫ナク處分スルヲ考メ
 要ス依テ全船ヲ外販シ之を付
 於先満鉄ト申トノ間ノ條件等
 付テ調査中ナリ
 工務課長中



九年
十月

第四八五號
共四

三月
一日

南滿洲鐵道株式會社東京支社

軍事部
手

東庶第一一三五號 大正十二年二月廿八日

南滿洲鐵道株式會社

社長 川村 竹治



陸軍次官殿

極東運輸組合ニ關スル件

鐵子御座相煩シ候首題ノ件ニ付テハ同組合ノ出資ニ係ル東西比
利亞汽船會社ノ經營ハ營業自体ニ於テ當分ノ間採算上不利ニシテ
且其ノ有利トナルヘキ時機ノ到來ヲ豫期シ難ク之ヲ犧牲トシテ北
滿貨物南下策等ニ利用セムトスルモ得策相償フヤ否ヤヲ保スル能
ハス假令採算上損失ナキ程度ニ利用セラル、モノトスルモ是等ノ
利益ハ必スシモ本事業ノ犧牲的繼續ニ俟タサルヘカラサルニアラ

0207 2020 0208

ス且ツ政府ニ於カセラレテ本年一月九日第一第二七五號和議
事務局長ヨリ御進達ノ次第モ有之如上ノ犧牲ヲ加ヒテ本事業ヲ
繼續セシムルノ御意圖ナキ以上ハ將來累加スヘキ損失ヨリ免カ
ル爲本事業ハ可成速ニ之ヲ中止スルヲ可トシ其方針ノ下ニ弊社ハ
大要左記方法ニ依リ措置致ス事ニ取極メ申渡御旨直被下度此段
得賢意候也

左記

イ 樺東運輸組合及東西比利亞汽船會社ヲ實質的ニ解散スルコト
但將來起ルヘキ外部トノ權利關係及社内經營事務ノ都合上適
當ト認ムル時機マテハ形式的ニ尙之ヲ繼續スルコト

ロ 解散ノ方法トシテ

▲ 現在船員ヲ徹底的ニ減員スルコト

B 組合所有ノ土地建物ノ區分ヲ爲スコト

C 附屬船舶ノ賣價ヲ調査スルコト

D 舊來組合ノ所有セル船舶「シルカ」「ソーコール」及「レビ
ル」ノ三隻ハ可成速カニ之ヲ賣却スルコト

ハ我力車意ニヨリ廻航セラレタル五隻ニ關シテハ速カニ賣却ノ
目的ヲ以テ所有權ノ附屬ヲ研究スルコト

ニ亞港ニ於テ發見車意ヨリ回航ヘ引渡ヲ受ケタル「ムコモール」
號ハ組合所屬船トセス別送ニ處理スルコト

ホ黒龍汽船會社トノ權義關係ヲ調査シ該社ニ關船中ノ船舶ニ關
スル權利保全ノ目的ヲ以テ必要ナル手段ヲ講スルコト

進テ本事業ヲ名實共ニ廢止スル場合ニ關シテハ更メテ御報告可申
上 候

九年

西曆一千九百一十八年三月

月九日

12.
1. 10
英五

拓一第ニ七五四号

軍務部第四系

大正十二年一月八日

拓殖事務局長元田敏夫

陸軍次官白川義則殿

極東運輸組合ニ関スル件

首題ノ件ニ関シ土月辛日附西發第百六三號

ヲ以テ御回答ノ次第有之候處該事業ノ繼續

ハ北端及西比利亞地方ニ於ケル邦人事業ノ發

展上好マレキコトナルモ南滿洲鐵道株式會社

ヲ以テ今後益々損害ヲ累カスルニ拘ラス強

テ該事業ヲ繼續セシメサルヘカラサルノ必

0211

0212

要無之儀ト認メテ候ニ付不取敢左記
 通南場洲鐵道株式會社へ回若致候
 條御了知相成度右及御通知候也

抄列事通局

並發願紙(十三行全)

拓一第ニ七五四号

大正十二年一月八日

拓殖事務局長元田敏夫

南滿洲鐵道株式會社社長川村竹治殿

極東運輸組合ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ九月二十三日附東廣第廿二
七號及十一月二十日附東廣第九〇五號ヲ以テ
御稟申ノ所處政府ニ於テハ貴社リレテ
將來強ク極東運輸組合事業ヲ繼續
セシムルノ意圖無之ニ付御了知相成度依
命此段及通達候也